

静かな空

連絡先 742-2602 山口県大島郡周防大島町油宇 福田忠邦 Tel+ Fax: 0820-75-1045

F35B 持ち込みを容認していいのか

来年1月、事故が多い米軍の F35B 戦闘機を岩国基地に持ってくることを、防衛省が岩国市に通達しました。岩国市長はアメリカへ視察に行き、問題ないとして11月2日に容認を決定、周防大島町長は議会で「了承はやむをえない」と述べました（中国新聞 11.5）。そこで「大島の静かな空を守る会」は11月7日、椎木町長、荒川町議会議長に、岩国基地へ F35B を持ち込む国の方針を受け容れないよう要望しました。

F35B の岩国基地への配備について

9月15日、住民団体「瀬戸内ネット」が、F35B と同型の F35A が、2年前にフロリダ州で、エンジンから火を噴く事故をおこしたことを指摘して、山口県知事、岩国市長に、F35B の受け入れを拒否することを求めました。

福田岩国市長は、10月24日アリゾナ州ユマ基地を訪問して、F35B の飛行状態を視察、11月2日の市議会全員協議会で、F35B は、いま岩国に来ている米軍機とくらべて特に騒音度が高いわけではないと報告、同機を岩国基地に持ち込むことを容認する意思を表明しました。

瀬戸内ネット（久米慶典顧問）が調べたところによると、今年9月23日にも、アリゾナ州ルーク基地所属の F35A が、アイダホ州の空軍基地で、機体後方から出火する事故をおこしていたことが判明しました。福田市長は同じアリゾナ州の F35A が起こしたこの事故のことを知らないまま、同型機の F35B には問題ないと考え、岩国基地へ配備することを承認する意思表示をしたのです。これは重大な手落ちです。米軍は点検不十分の新型機を、岩国基地で点検しようとしているかにも見えます。

瀬戸内ネットは11月4日、F35B 配備を承認するという意思表示を撤回することを福田市長に要請しました。

貴職（町長）もマスコミ取材にたいして、F35B の配備を「了承することはやむを得ない。米国を視察した岩国市の主体的な検証に重きを置いた」と発言されたと報道されましたが（中国新聞、朝日新聞 11月5日）、事故があったこと

を知らなかった岩国市長の「主体的な検証」の報告は、信用に値しないものといわなければなりません。

11月8日には山口県知事が岩国市長、周防大島町長、和木町長と会談、容認について協議されると伝えられましたが、このような重大な情報を知らないままにF35Bの配備の容認を協議するのはきわめて危険です。

周防大島町民の安全を守ることを主務とする貴職は、岩国市長の不十分な検証をそのまま信頼するのではなく、周防大島町が独自にこの事故の実態を詳しく調査し、安全性の保障がない限りF35Bを岩国基地に受け入れることには同意できないとの立場を、毅然として貫いていただきたいと思います。

同日午後、「瀬戸内ネット」は山口県庁の岩国基地政策室を訪問、椎木町長への要望と同趣旨の要望を県知事に提出しました。翌8日、県知事と岩国市長、和木・周防大島町長の会議が行われ、受け入れ容認の意向を国に伝えることを申し合わせました。

ところがその2時間後、中国四国防衛局から、10月27日にアメリカのサウスカロライナ州でF35Bが飛行中に火災事故をおこした、これは「クラスA」とされるもっとも重大な事故だと判定された、との通報がきました。県知事と3市町長は8日夜、緊急の電話会議で、当面「受け入れ容認」はひとまず「留保」とする、つまり当面は容認しないことを決定しました。発生した事故はすべて火災事故で、エンジン、燃料系統に欠陥があることがわかります。

11月10日、「瀬戸内ネット」、大島の「守る会」が参加している「F35B配備反対市民集会」が、F35B配備の容認を白紙撤回するよう、岩国市長に申し入れました。しかし12月21日、村岡県知事と福田岩国市長は外務省と防衛省を訪問、「安心安全対策と地域振興策の実施について配慮することを求める要望書」を提出し、県知事は「地域振興などについて国からしっかり対応していくとの回答をもらったので、配備を了承した」とのべました。(朝日、12.22)

周防大島町議会は12月19日の全員協議会(非公開)で、事故について中四国防衛局の説明を聞きました。議員から「住民の不信感は払拭されていない」との意見が出ましたが、町長は「一定の理解はした。地元岩国市の意見を尊重して適切に対応したい」と述べました(中国12.20)。米軍機が頭上を頻繁に飛行する周防大島町民の不安よりも、岩国市の意見のほうを重視する町長の基本的政策には疑問が残ります。防衛省がどのような説明をして、町長が「一定の理解をした」のか、詳細を町民に説明していただきたいものです。

戸村良人のカメラの眼 2016年11月9日 文珠山山頂で

10:40 海上自衛隊 EP-3 電子戦データ収集機



12:28 海上自衛隊 OP-3C 画像データ収集機 (岩国基地)



12:34 海上自衛隊 US-1A 救難飛行艇 (岩国基地)



12:56 海上自衛隊 US-1A 救難飛行艇 (岩国基地)



14:34 米海兵隊 F/A-18 ホーネット戦闘攻撃機が2機、展望台の真上に飛んできました。

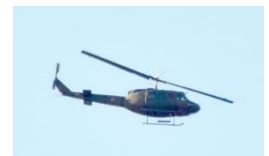
岩国基地所属の同型機 F/A-18 ホーネットが、12月7日に高知沖で墜落、パイロットは死亡しました。



14:44 米海兵隊 F/A-18D ホーネット戦闘攻撃機 (岩国基地) DTが2機。今度は展望台から柳井方向にちょっと離れています。ちょうど太陽を背にしていたため、これより前は写真撮影が出来ていません。



14:46 自衛隊 UH-1 多用途ヘリ。



15:59 海上自衛隊 OP-3C 画像データ収集機。



16:09 海上自衛隊 EP-3C 電子戦データ収集機 (岩国基地)。



16:21 海上自衛隊 OP-3C 画像データ収集機 (岩国基地)。



16:23 米海兵隊 kC-130J 空中給油機スーパーハーキュリーズ (岩国基地)。



岩国基地の F/A-18 ホーネット戦闘攻撃機が墜落

周東町 戸村良人



12月7日、ついに岩国基地所属の主力戦闘攻撃機 F/A-18 ホーネットが高知沖に墜落、乗員死亡という事故がおきました。このところ、9月22日にハリアーII、10月27日にF-35Bが事故して問題になっていますが、

毎日のように、飛び回っているホーネットが事故しないのが不思議でした。岩国基地所属のホーネットの墜落事故は1989年が最後、部品落下などの事故は、2001年が最後(岩国市発行「基地と岩国」)、それ以降は報告されていません。

「ホーネットだけは安全?」「部品落下、エンジン故障で引き返しなど軽易な事故は日常茶飯事、報告しないだけなのでは?」なんて話されていましたが、ついに「死亡事故」です。「起きるものが起きた」というのが率直な感想。事故が18時45分頃ですから、18時30分頃岩国基地を離陸したのでしょう。

一昨日に墜落したのは「201番機」というのが判明しました。この機は、2014年にも何度か撮影(2015年は見ず)、今年8月30日に見たのが最初で、以降毎日とは言えませんが、かなり頻繁に飛び回っている機です。トップページに赤色で強調していますから、一度見ておいてください。(前掲写真が海中に墜落した201番機)。(インターネット「行動の写真集」から)

12月9日、「瀬戸内ネット」が岩国市長に、事故の原因が解明されるまでは同型機の飛行を停止するように求めてほしい、との「要請書」を提出しました。

オスプレイも墜落

12月13日夜、みんなが心配していたオスプレイが、とうとう名護市海岸に墜落しました。沖合30キロで空中給油を受ける訓練中、プロペラがホースを切断して飛行できなくなり、海岸まで戻って墜落したのです。米軍調整官が「住宅を避けたパイロットは称賛されるべきだ」と言ってひんしゆくを買いましたが、30キロの沖合から海岸へ戻ってきたことを「住宅を避けた」と言えるかどうか。給油事故が海上で行われても、パイロットを救出するために、事故機は陸地に戻ってくる必要があります、どうしても陸上墜落の可能性が生じます。大きなプロペラの飛行機にホースで空中給油すること自体が機体の構造を無視した無謀な飛行です。2015年ハワイでも着陸失敗して、2人亡くなっています。

オスプレイは全国的な非難をしり目に、1月6日空中給油を再開しました。

2016年に起こった米軍機事故

- 5月19日 グアム・アンダーセン空軍基地でB52爆撃機が墜落。
- 6月2日 テネシー州でFA-18Cホーネットが墜落。パイロット死亡。
- 6月2日 コロラド州でサンダーバードF-16墜落。
- 9月17日 アメリカ空軍当局は、F35戦闘機のうち10機に離陸を認めない。
- 9月22日 岩国基地所属ハリアー隊長機が沖縄で墜落。
- 10月27日 サウスカロライナ州で飛行中のF35Bが出火事故（クラスA事故）。
- 12月7日 岩国基地所属のFA-18ホーネットが高知県沖で墜落事故。
- 12月13日夜 名護市海岸にオスプレイ墜落。

岩国市議会の議員連盟が抗議

ハリアー、ホーネット、オスプレイなどが、沖縄県や高知県と相次いで墜落事故をおこしました。その内の2機は岩国基地所属の米軍機です。この現実について、稲田防衛大臣が示した、安心安全対策の実効性のない回答を、福田岩国市長は「力強い回答」と評価し、「F35Bの配備を了承」しました。

岩国市議会議員7名から成る「議員連盟」は12月28日、福田市長が「配備了承」したことについて、抗議書を提出しました。抗議書は、議会で「誠意ある回答が無い場合には（配備留保を）解除出来ない」と明言した市長が、大臣と10分間会談しただけで、まだ安心安全の保障がないのに「配備を了承」したのは「議会軽視」だと言っています。（抗議文書）

「議員連盟」は1月13日にも、早期警戒機E2Dの訓練を容認するのは、なし崩しで空母艦載機を移駐するものとして、抗議しました。（中国1.14）

誰が容認したのか 米軍「今年後半 艦載機を岩国移駐」

「オスプレイ墜落事故」の報道が終わると、新年早々「オスプレイ空中給油再開」「F35B 持ち込み」「早期警戒機は2月」「艦載機移転 ことし後半」などの大活字が新聞紙面に踊り、1月18日にはもう F35B が岩国に飛来しました。艦載機が移駐したらもう後戻りはできませんが、岩国市や周辺自治体の住民はどこか遠い国の出来事のように、黙って成り行きを見ているようです。
その間、台湾は「脱原発」法を可決しました（各紙1月12日）。

新刊紹介 藤村英子著 **まだ言いたいことがあるんよ！**

藤村美千枝 編集・写真；藤村寛 デザイン。－広島：(株)グラフィック (印刷), 2016.10.

154p：挿図；26cm

2014年、藤村英子さんが長年書き続けてこられた意見をまとめた秀著『言いたいことがあるんよ！』（B5,167頁）が、息女美千枝さんの編で、米寿記念として出版されましたが、藤村さんが書き続けてこられた新聞投書や意見はとも一冊に収めきれませんので、今年は卒寿のお祝いとして、続編『まだ言いたいことがあるんよ！』（B5判）が刊行されました。

前著は1994年から2004年までの10年間、新著は2005年から2016年までの12年間の著述を、執筆年順に排列してありますので、藤村さんの最近22年間の人生を濃縮したような著作です。とりあげる論題は日本全国、アジア、ヨーロッパまで及び、藤村さんの精神がいかに躍動してきたかをありありとみることができます。これは日本現代史の生き生きとした記録ともいえます。新著第二部では、これまでの論評から一転して、病める夫への溢れる愛と、早世した夫への尽きぬ追慕の想いを書きつづけた短歌、自己紹介、写真など。藤村英子の素顔の人間像が表されていて、読者の胸を打つものがあります。

本書を読んで、藤村さんを「まさに”筆豪” “ペン豪” と申し上げるべき」と称賛し、さらに「ご本を編集・造本された娘さんにも敬服いたしました。何という親孝行な娘さんでしょう。親子とはいえ、なかなか出来ることではありません。”この親にしてこの子在り”ですね」と評した人もあります。

昨年も協力金（自由意志）ありがとうございました。振込先 記号番号 01380-1-88949 カワイヒロシ